「唯一無二の存在」長嶋茂雄元監督とホセ・ムヒカ元大統領

―「挫折してもプライドは失わない、それは努力しているからだ」―

（長嶋茂雄終身名誉監督）

本誌編集長 佐藤 公（さとう たかし）

（2025年新緑号）

「唯一無二の存在」として親しまれた偉人が最近この世を去った。

一人は、6月3日に死去した読売巨人軍の長嶋茂雄・終身名誉監督。戦後の日本を象徴するスーパースターで、「燃える男、ミスタープロ野球」と称され国民的人気を誇った。

もう一人は、5月13日に亡くなった〝世界でもっとも貧しい大統領〟として知られた、ウルグアイのホセ・ムヒカ元大統領。どちらも89歳の生涯だった。

長嶋茂雄さんは2013年に国民栄誉賞を受賞、2021年にプロ野球界初となる文化勲章を受章した。

74年に「わが巨人軍は永久に不滅です」の名言を残して引退するまで、首位打者6回、本塁打王2回、打点王5回のタイトルを獲得し、最優秀選手に5回選ばれた。背番号3は巨人の永久欠番だ。

「野球界の象徴としての存在感であるが、球界を超えて日本中に勇気と夢を与え続けた、唯一無二の存在だった」「明るさが日本の経済社会になくてはならない存在だった。時代が一つ終わったと感じる」「底抜けに明るくて優しくて大きくて太陽のような方でした」と経済界からも故人を偲ぶ。

長嶋茂雄さんの「心に響くメッセージ」がある。

「ウサギとカメならカメでいい。我慢する勇気が重要なんです」

「挫折してもプライドは失わない、それは努力しているからだ」

「なにか一つのことに脇目も振らずに打ち込める時期を持てる人は幸せかもしれない。今の若い人達はのめりこめるものを見失っている」

これらのフレーズは、どんな困難に直面しても決して諦めない強さを求めているのである。令和の米騒動ではないが？…。

2010年から2015年までウルグアイ大統領を務めたホセ・ムヒカ氏。今は多くの矛盾を抱えた不確実な過渡期の時代という。

〝世界一貧しい大統領〟ムヒカ氏の個人資産は、フォルクスワーゲン・タイプ1（ビートル、1987年製）とトラクター、農地のみで、大統領官邸には住まずに、首都郊外の質素な住居で暮らしていた。自分の収入の9割を貧しい人々へ寄付し続けた。国連の会議では、豊かさを追い求める国際社会の在り方を批判した。

「無限の消費と発展を求める社会は、人々を、地球を疲弊させる。発展は幸福のためになされなければならない」2012年のリオ会議（地球サミット）で行った名スピーチである。

「貧乏な人とは、少ししか物を持っていない人ではなく、無限の欲があり、いくらあっても満足しない人のことだ」現代の大量消費社会を批判し、本当の豊かさとは何かを問いかけてきた。

「私たちは、欲求を満たすために、人生の時間を費やさなくてはなりません。もし〝欲求〟が無限に拡大するとしたら私たちには時間がなくなり、それだけで人生が終わってしまうでしょう。シンプルに生きる道を選ぶことで、より自由を得ることができます」

「強制されたものではなく、自分の好きなこと、選択したことに人生の時間を費やすことこそ〝自由〟なのです」

「若い人は科学や研究、スポーツ、さまざまな分野で挑戦ができます。文章を書くことも、絵を描くこともできます。サッカーでも良いのです。これだということを何かひとつ持つのです」

そして、ムヒカ元大統領は人生をいかに生きるかを問う。「もし買い物の代金を払うために働いて、働いて、年を取るまで働き続けたら、最後に大きな疑問が生じます。『私の人生は何だったの？』と。ですから、生きるための大義名分を見つけることが大切なのです」

「戦争は一方が他方を打ちのめすか、政治的交渉によって終了するかの2つに1つです。ロシアを潰そうとすれば、核のボタンを押す手前まで追いつめることになり、そうなれば我々はすべてを失うおそれがあります。

したがって政治的な交渉を模索する必要があります。それはロシアにウクライナの領土を与えるということではなく、国境でロケット弾などを発射しないことを保証するのです。交渉は終わりのない戦争よりもましですから。

戦争は怒りではなく知性によって解決されます。出口を提案する道義的権限を持っている国のひとつは日本です。なぜなら、日本は唯一の被爆国だからです。それが日本の持つ歴史的な外交力です」 どうする、日本政府！

「発展が幸福の対向にあってはいけないのです。発展というものは、人類の本当の幸福を目指さなければならないのです。愛、人間関係、子供へのケア、友達を持つこと、そして必要最低限のものを持つこと。幸福が私たちにとってもっとも大切な『もの』だからなのです。環境のために戦うのであれば、幸福が人類の一番大事な原料だということを忘れてはいけません」

ムヒカ氏は、幸せの条件として「愛情、人間関係、子どもを育てること、そして友人を持つこと」を指摘する。筆者はこのことを知ってさらに「人間が一番うれしいことはなんだろう？」という問いに「人が一番うれしいのは、人をよろこばせることだ、ということがわかりました」というアンパンマンの作者である、やなせたかしさんの名答、人生訓を想起したのである。

「人は、人がよろこんで笑う声を聞くのが一番うれしい。だから、人がよろこび、笑い声を立ててくれる漫画を長く描いてきた」というのである。